令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月５日実施）	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	新カリキュラム実施にあたり、外国につながりのある生徒の学習支援も含め、生徒の包括的ニーズに応じ、生徒を取り巻く社会からの要求が反映された教育課程を開発し、展開する。	①本校生徒のニーズを的確に把握したうえで、新教育課程実施に向けて、ある程度のスパンを見据えた具体的な検討を行う。 ②教材・教具等も含め、様々な工夫を試みたうえで、教育活動のあらゆる面で生徒の基礎学力や生活力の向上を図っていく。	①本校の特色を活かす視点から新教育課程実施に向け、学校全体で履修指導等の検討を行う。 ②生徒の基礎学力や生活力の向上を図る視点で他教科や異校種との授業研究を進める。	①本校生徒のニーズに沿った履修指導の検討は進んだか。 ②他教科や異校種と協議を含めた授業研究会が実施できたか。	①本校の特色や生徒のニーズに沿った視点で観点別評価、履修指導、時間割作成等を検討し、課題の共有や改善を図った。 ②他教科や川崎市立南大師中学校との協議まではできなかった。授業研究会で ICT 活用授業の振り返りも含めた他教科やグループの課題・取組み等を共有した。	①生徒のニーズに沿いながら、３年間を見通せる履修指導の資料作成等を行う。 ②授業見学後の協議を他教科と実施するなど、他教科との連携が高まる授業研究会の検討を行う。	①「履修指導の資料作成等」とは、どのようなものを想定し、いつまでに作成する予定なのかについて明らかにしてほしい。 ②授業研究において、教科間での連携した取組は極めて重要なので検討を進めてほしい。異校種との授業研究はコロナ禍の中で難しい面があるが、コロナの感染状況を見つつ検討していただきたい。	①新教育課程実施に向けて、本校の特色を生かす視点や生徒のニーズに沿った視点で、観点別評価や履修指導、時間割作成等の検討を行い、職員間で課題の共有や改善を図った。 ②他教科や川崎市立南大師中学校との授業見学は実施できた。授業研究会では授業の振り返りを含めて課題等を共有した。異校種との授業見学後の協議はコロナ禍の中で実施できなかったが、今後、実施の方策を模索したい。	①本校の特色や生徒のニーズに沿いながら、３年間を見通せる履修指導を行うための資料の作成及び具体的な日程等を計画的に示す。 ②異校種との授業見学後の協議を含めた授業見学会は、是非とも実施する必要がある。コロナ禍の中でも対応できるオンライン等での実施を検討する。
2	生徒指導・支援	生徒が生きていくために抱える様々な課題に、柔軟かつ効率的に対応する指導・支援の効果的手法を導入し、組織的な体制拡充を図る。	①社会の中で自らの居場所を見出すうえで必要となる支援に、様々な手段と方策を用い粘り強く取組んでいく。 ②基本的な生活習慣の確立を基盤に、社会の中で自立していくうえで必要となる判断力や自立心を涵養する。	①新入生歓送迎会など、新入生に対しても在校生に対しても様々な角度からアプローチしていく。 ②生徒の実態をふまえた支援を通じて、ルールやマナーを守る意識を喚起・向上・定着を図る。	①部活動の加入率が 30％まで伸びたか、また活動実績が向上したか。 ②綿密な情報共有を通じて的確な支援策を実施し、生徒の自覚を高め、遅刻者数の減少などを実現できたか。	①コロナ禍で活動を制約されたが、昨年度の反省を活かして、出来る限りのことを生徒会役員とともに実施できた。 ②一律に同じ指導・支援方法をとることなく、個々の生徒の特性を踏まえた上で指導を実施し、ルールやマナーを守る意識の定着に一定程度の成果を得た。	①部活動加入率は 29.4%(前回 25.8%)となり、少しずつ成果が出てきている。今後も出来ることから実施し、加入率を上げる。 ②遅刻指導に関しては、充分な成果を挙げることができなかった。生活グループを中心に他の職員の知恵を借り、効果的な方法を模索して行きたい。	①部活動加入率が前年比プラスとなったことは、数値目標を掲げ、学校全体で取り組んできた成果である。部活動を通じて、コミュニケーションが重要であることを感じてほしい。 ②コロナ禍により、高校生の生活習慣の乱れが指摘されている。基本的生活習慣として、しっかりと時間を守って行動することは重要であり、効果的な方法について検討してほしい。	①コロナ禍で、部活動への取組が制限される中でも部員および職員が意欲的に活動した。その結果、部活動加入率が前年比プラスとなった。次年度もさらに部活動加入率を引き上げる方策を検討する。 ②一律に同じ指導・支援方法をとるのではなく、個々の生徒の実態を把握し、それを踏まえた上での指導をおこなった。その結果、個々の生徒がルールやマナーを守る意識をある程度持つようになった。	①年度当初より新入生はもとより、２・３年次生に向けても部活動の魅力を発信して部活加入率の向上に努める。また、年間を通じて部活動の活動状況を発信して加入を促す。 ②遅刻指導については、充分な成果を挙げられず、遅刻する生徒の減少にはつながらなかった。遅刻を減らし、基本的生活習慣を身に着けさせるために職員が一体となって遅刻指導の方策を検討する。
3	進路指導・支援	様々な生活・生育背景を持つ生徒に対し、自分が「したいこと」「できること」「しなければならないこと」を自覚させ、それに取り組むために必要となる知識と経験を蓄えさせる。	①社会の中で自らの役割を自覚させたうえで、自ら置かれた現実を正しく認識させ、必要となる知識・経験を確かなものとしていく。 ②自分が「したいこと」「できること」を客観的に把握していくために、様々な工夫を凝らした手段と方策により、粘り強く取り組んでいく。	①高校卒業後のキャリアデザインを踏まえた進路希望を設計させ、希望の実現に向けた取組を指導・支援する。 ②中学校までの取組を踏まえて、１年次生からのキャリア・パスポートづくりを指導し、生涯にわたるキャリアデザインの設計を支援する。	①高校卒業時点での進路未決定者の比率が 0%に近づいたか。 ②２年次終了時点で、卒業後のキャリアデザインが設計でき、進路希望未定という生徒の比率が 0%に近づいたか。	①令和２年度卒業生の進路未決定率 17.8%に対し、３年度卒業生は 10.1%に減少した。 ②３月末に調査を行う予定である。直近の 12 月時点では、進路希望の未定者が 11.0%である。	①現在、就職活動を続けている者もおり、卒業後も含めて、進路支援を続けていく。 ②現１年次生から取り組ませているキャリア・パスポートの積み上げを生かし、進路希望未定者を減少させる取組を続ける。	①「達成状況」の進路未決定率の減少は、これまでの取組の成果として評価できる。引き続き、就職活動を続けている生徒への支援や１年次生からのキャリア教育の充実に努めてほしい。 ②「したいこと」が、職にできることは僅かであるが、職に就いて仕事が「したいことに」変化することもある。生徒は、それらを自覚する必要がある。	①卒業時の進路未決定者の比率をさらに低下させることができた。個々の生徒の進路活動をより丁寧に支援し、さらに進路未決定率の低下を目指す。 ②１年次より取り組ませているキャリア・パスポートを定着させて、常に卒業後の進路を意識させる取組を続けることで、進路希望未決定者を減少させる。	①進路未決定者の比率は減少しているが、そのような中で、最終的に進路未決定となった生徒の事由を分析し、次年度へ向けて改善を図る。 ②コロナ禍の中で対外的な取組に制約はあるが、感染予防対策をしっかりとおこない、進路意識をさらに高めるための仕組作りを検討する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 25 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月５日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	生徒を取巻く大人たちが果たさなければならない役割を相互に意識したうえで、多文化共生の視点も含め、機会に応じた効率的かつ効果的な諸活動を実施する。	①新型コロナ感染症拡大防止対策も含め、地域が有する様々な資源を活用し、安全で安心な環境づくりに努めていく。 ②生徒一人ひとり、教職員ひとりひとりが広告塔であるという自覚をもち、教育活動を機会に応じて効率的かつ効果的に発信していく。	①PTA や地域の方々の参画を得る体制を構築する。 ②ホームページのレイアウトの見直しを行い、更新回数を大幅に増加させ、学校の教育活動、学校生活の様子、本校の特色などを発信していく。	①学校行事で PTA や地域との連携が図れたか。 ②ホームページを見やすくし、月単位のホームページの更新回数を大幅に増やすことができたか。	①学校行事において飲料提供などで PTA と連携できた。 自動水栓の設置やディスペンサーの配置で，安全・安心な環境づくりの一助が行えた。 ②ホームページを月２～３回の割合で更新し、学校行事の様子や本校の取り組みなど、情報発信に努めた	①次の年度への PTA 事業の継承に困難な面がある。また，地域の方々の参画を得る体制は構築できなかった。 ②本校の現状や取組、生徒・職員の様子をより広く、より深く知ってもらうためにホームページの改善を進めるとともに、その他の広報活動を模索する。	①物品消毒等で使用する次亜塩素水が必要であれば、無償提供する。一日も早く、生徒が安心して授業を受けられるよう支援する。 ②ホームページは学校側が考えている以上に閲覧されている。月に２・３回更新するというペースはかなり意欲的であり、学校の発信力は学校への信頼にもつながり、大変有意義である。	①コロナ禍の中で行われた学校行事において、PTA と連携を図ることができた。次年度は、コロナ禍の中でも適切な対策を取りながらPTAをはじめ、地域との連携をさらに図る方法を検討する。 ②担当グループを中心にホームページの更新を積極的に行い、学校の取組、生徒の様子等を発信することができた。次年度は更新回数だけではなく、写真、デザイン、文言等の内容を充実させる。	②新型コロナ感染症の影響が長期化する中で、どのような形態で地域に貢献でき、連携して取り組めるか、新たな方策を検討する。 ②ホームページ画面のデザインや写真、文言等について、特色あるものにして、閲覧する方々に印象付けられるように検討を行う。
5	学校管理 学校運営	本校がもつ「強み」と「弱み」を常に整理しながら、人的および物的資源を有効かつ効率的に利活用した、誰からも愛される学校づくりを進める。	①現在ある資源を有効に活用するとともに、現状の社会情勢に鑑み、機動的な対応ができるよう必要な教育環境整備に努める。 ②本校を取巻く今後の状況変化を見据えながら、校内組織や予算運用等のスリム化を進め、より効率的な学校運営の検討を行う。	①昨年度、各教室にモニター等を設置して wi-fi を含む ICT を利用した教育環境の整備が進んだ。今年度はこれの活用に向けた職員研修会などの実施を行う。 ②環境問題と関連させ省エネルギー・省資源化を図る。	①ICT を授業等に活用するための職員研修会を実施して、多くの職員が授業に活用することができたか。 ②ゴミの量が減ったか。分別は徹底できているか。	①ディスプレイなどを早期に的確に配備できた。Wi-Fi も順次配備できた。また、機器の授業への活用に向けた研修も複数回行い、すべての教員がオンライン授業を行った。 ②粗大ごみの廃棄を計画的に行った。ゴミの分別はおおむねできている。	①一人一台端末導入に、活用できる機器などの準備が未整備である。 ②省エネルギーの観点では、換気と空調の兼ね合いに困難をきたしている。 ゴミの分別はできていても、環境問題や SDGs の意識と関連させることはできていない。	①職員研修の複数回実施やオンライン授業の試みなど、ＩＣＴを活用した授業を意識した取組は評価できる。引き続き、教員が有効に活用できるようになり、授業改善に活かしていただきたい。 ②環境美化は、規律を守ることと密接になる。学校においても環境美化の習慣が、遅刻撲滅や生徒の意欲向上につながるのではないか。生徒を巻き込んだ環境美化をおこなうことにより SDGs と関連させることもできるのではないか。	①年度当初より各授業教室に大型モニター等のＩＣＴ機器を設置し、Wi-Fi 環境も整えて、コロナ禍の中でのオンライン授業に対応できた。職員の ICT を活用した授業向けの研修会もおこなった。次年度の１年次より始まる、一人一台端末導入後の取組等について検討する。 ②ごみの分別は概ねできており粗大ごみも計画的に処分することができた。分別や省資源化の意義について生徒に考えさせる方策を検討する。	①ＩＣＴ機器を活用した授業が各教科において行われる中、それに伴う様々な疑問点、問題点を共有化して、解決策や改善策を検討する。また、一人一台端末の具体的な活用方法について検討する。 ②生徒に環境問題や SDGs を意識させるために、職員間での研修会を実施し、ロングホームルーム等で生徒に考えさせる。